

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 10-141782
 (43)Date of publication of application : 29.05.1998

(51)Int.Cl. F25B 1/00

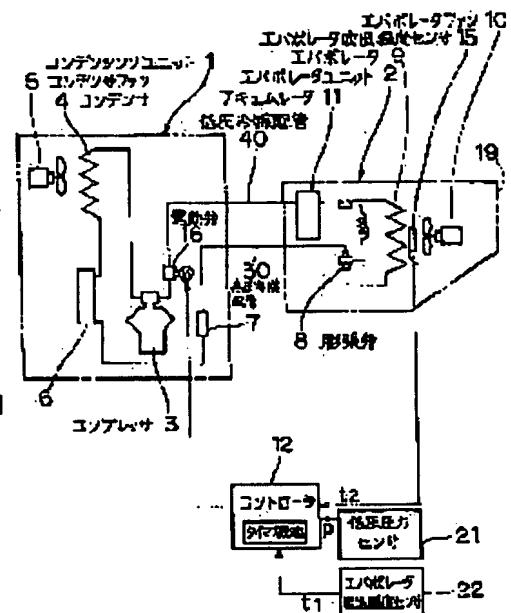
(21)Application number : 08-298652 (71)Applicant : MITSUBISHI HEAVY IND LTD
 (22)Date of filing : 11.11.1996 (72)Inventor : TAKEYAMA SHINGO

(54) REFRIGERATING SYSTEM FOR TRANSPORTATION

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a refrigerating system for transportation which prevents the exhaustion of a lubricant of a compressor and the generation of seizure at a sliding part by opening an electric operated valve by a fixed time in a light load operation and at the starting to return the lubricant to the compressor.

SOLUTION: In this system, a condensing unit 1 which is installed outside a refrigerating storage and provided with a compressor 3, a condenser 4 and a condenser fan 5 driven by an engine is connected to an evaporator unit 2 which is installed in the refrigerating storage and provided with an evaporator 9 and an evaporator fan 10 by a refrigerant tube. In this case, a suction side piping of the compressor 3 is provided with an electric operated valve 16 for controlling capacity while a control means is provided to fully open the electric operated valve 16 for a set time as each time-set operation of the compressor 3 is performed at the starting time of the compressor 3 and during the specified light load operation thereof.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 21.06.2001

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 3462680

[Date of registration] 15.08.2003

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-141782

(43) 公開日 平成10年(1998)5月29日

(51) Int.Cl. ⁶

識別記号
304

F I
F 25 B 1/00

304W

審査請求 未請求 請求項の数 1 OL (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平8-298652

(22)出願日 平成8年(1996)11月11日

(71) 出願人 000006208

三菱重工業株式会社

東京都千代田区丸の内二丁目5番1号

(72) 發明者 竹山 信儀

愛知県西春日井郡西枇杷島町字旭町3丁目
1番地 三菱重工業株式会社エアコン製作
所内

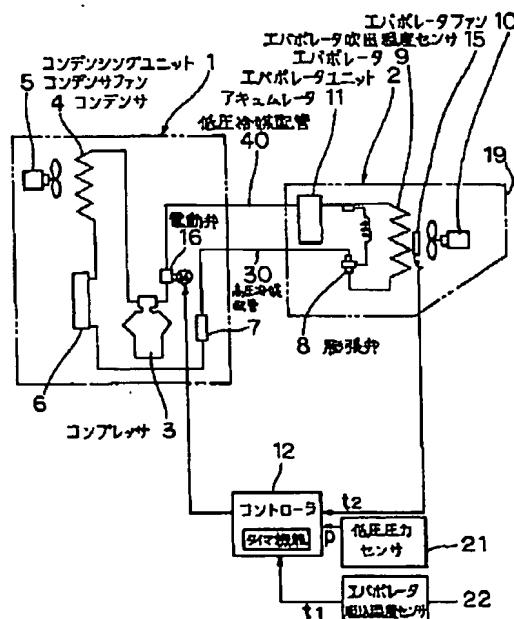
(74)代理人 美理士 石川 新

(54) 【発明の名称】 輸送用冷凍装置

(57) 【要約】

【課題】 軽負荷運転や起動時に一定時間電動弁を開として潤滑油を圧縮機（コンプレッサ）に戻すことにより、圧縮機の潤滑油の枯渇の発生及びこれによる摺動部の焼付きの発生を防止した輸送用冷凍装置を提供する。

【解決手段】 冷凍庫外に設置され、エンジンにより駆動される圧縮機、コンデンサ及びコンデンサファンを備えたコンディンシングユニットと、冷凍庫内に設置され、エバポレータ及びエバポレータファンを備えたエバポレータユニットとを冷媒配管で接続してなる輸送用冷凍装置において、上記圧縮機の吸入側配管に能力制御用の電動弁を設けると共に、上記圧縮機の起動時及び所定の軽負荷運転時に、それぞれ上記圧縮機の設定された時間運転毎に、上記電動弁を設定時間全開とする制御手段を備える。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 冷凍庫外に設置され、エンジンにより駆動される圧縮機、コンデンサ及びコンデンサファンを備えたコンディンシングユニットと、冷凍庫内に設置され、エバボレータ及びエバボレータファンを備えたエバボレータユニットとを冷媒配管で接続してなる輸送用冷凍装置であって、上記圧縮機の吸入側配管に能力制御用の電動弁を設けると共に、上記圧縮機の起動時及び所定の軽負荷運転時に、それぞれ上記圧縮機の設定された時間運転毎に、上記電動弁を設定時間全開とする制御手段を備えたことを特徴とする輸送用冷凍装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は能力制御手段を備えた輸送用冷凍装置、特に陸上輸送用冷凍装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 図2には陸上輸送用冷凍装置の要部斜視図が示され、図3には従来の能力制御手段を備えた上記冷凍装置の1例が示されている。

【0003】 図2、図3において、100は冷凍庫であり、同冷凍庫100内にはエバボレータユニット2が設置され、また冷凍庫100の外部（前方あるいは下方）にはコンディンシングユニット1が設置されている。

【0004】 上記コンディンシングユニット1には、エンジン（図示省略）により駆動され冷媒を圧縮するコンプレッサ（圧縮機）3、同コンプレッサ3からの加圧ガス冷媒を冷却、液化するコンデンサ4、同コンデンサ4に冷却空気を送るコンデンサファン5、レシーバ6、ドライヤ7、コンプレッサ3への吸入側配管である低圧冷媒配管40を開閉する電動弁16等が装備されている。

【0005】 また上記エバボレータユニット2には、上記コンデンサ4にて液化され、高压冷媒配管30を経た液冷媒を断熱膨張する膨張弁8、同膨張弁8を経た冷媒を蒸発、気化するエバボレータ9、同エバボレータ9を通る空気を搬送するためのエバボレータファン10、エバボレータ吹出空気温度センサ15等が装備されている。19はエバボレータの空気吹出口である。

【0006】 上記冷凍装置において、コンプレッサ3がエンジン（図示省略）によって駆動されると、同コンプレッサ3にて圧縮された高圧・高温のガス冷媒はコンデンサ4に送られ、ここでコンデンサファン5によって導入された外気によって冷却され凝縮、液化する。この液冷媒は、コンデンサ4を出ると、レシーバ6及びドライヤ7を経て、コンディンシングユニット1とエバボレータユニット2とを接続する高压冷媒配管30によって、エバボレータユニット2に配設された膨張弁8に送られる。同冷媒はここで断熱膨張した後、エバボレータ9に入り、エバボレータ9内の配管を通過する過程で、エバボレータファン10によってエバボレータ9に送り込まれた冷凍庫100内の循環空気と熱交換し、この循環空

気を冷却する。冷却された空気は、エバボレータファン10によって吹出口19から冷凍庫100内に吹き出され、冷凍庫100内を冷却する。

【0007】 上記エバボレータ9にて、冷凍庫100内の循環空気と熱交換した冷媒は、蒸発、気化して、エバボレータユニット2とコンディンシングユニット1を接続する低圧冷媒配管40を経てアキュームレータ11に送られ、ここからコンプレッサ3の吸入側管路である上記低圧冷媒配管40を開閉する能力制御用の電動弁16を通ってコンプレッサ3に戻される。

【0008】 上記冷凍装置の能力は、コンプレッサ3の運転時間によっても変わるが、エバボレータの吹出し空気温度の変化を少くするため、コンプレッサ3を運転させ、これを停止させることなく、吹出温度センサ15によりエバボレータ9の吹出し空気温度を検出し、これをマイクロコンピュータを搭載したコントローラ12に入力して、同コントローラ12にて設定温度との差を演算し、これに対応した電動弁の開度を上記電動弁16に指令する。上記吹出し空気温度が設定値に達しているときは、電動弁16は全閉とされ、吹出し空気温度が設定値を大きく超えているときは、電動弁16は全開とされる。

【0009】

【発明が解決しようとする課題】 上記従来の陸上輸送用冷凍装置においては、エバボレータ9の吹出し空気温度が設定値に達しているとき、即ち軽負荷のときに電動弁16は全閉となる。このため、かかる従来の冷凍装置にあっては、長時間この状態でコンプレッサ（圧縮機）3を運転していると、同コンプレッサ3の潤滑油は少量ずつ吐出されてコンディンシングユニット1およびエバボレータユニット2の配管に溜り、吸入配管からコンプレッサ3に戻される潤滑油が無くなるため、同コンプレッサ3に貯留される潤滑油が時間とともに減少し、ついにはこれが枯渇しコンプレッサ3の摺動部の焼付きの発生をみるという問題点があった。

【0010】 本発明の目的は軽負荷運転時や起動時に一定時間電動弁を開として潤滑油を圧縮機（コンプレッサ）に戻すことにより、圧縮機の潤滑油の枯渇の発生及びこれによる摺動部の焼付きの発生を防止した輸送用冷凍装置を提供することにある。

【0011】

【課題を解決するための手段】 本発明は上記問題点を解決するもので、その要旨とする手段は、冷凍庫外に設置され、エンジンにより駆動される圧縮機、コンデンサ及びコンデンサファンを備えたコンディンシングユニットと、冷凍庫内に設置され、エバボレータ及びエバボレータファンを備えたエバボレータユニットとを冷媒配管で接続してなる輸送用冷凍装置において、上記圧縮機の吸入側配管に能力制御用の電動弁を設けると共に、上記圧縮機の起動時及び所定の軽負荷運転時に、それぞれ上記

圧縮機の設定された時間運転毎に、上記電動弁を設定時間全開とする制御手段を備えたことにある。

【0012】かかる手段によれば、コントローラ等の制御手段は、冷凍負荷の検出信号としてのエバボレータ吹出し空気温度あるいはエバボレータ吸込み空気温度あるいは冷媒の低圧圧力等により、冷凍装置の軽負荷運転が一定時間継続したことを検知すると、強制的に所定の短時間電動弁を開放せしめて吸入ガスを圧縮機に流す。これにより、コンディンシングユニットおよびエバボレータユニットの配管内に溜った潤滑油は吸入ガスと共に圧縮機に戻されて貯留される。

【0013】また上記圧縮機の起動時には吸入圧力が高く、同圧縮機より吐出される油量が多いので、上記制御手段は圧縮機の起動後所定時間上記電動弁を強制的に開放し、吸入ガスとともに潤滑油を圧縮機に戻すことにより、圧縮機に貯留される油量を確保する。これにより圧縮機には常時所要の潤滑油が確保されることとなり、潤滑油の枯渢による摺動部の焼付きの発生が防止される。

【0014】

【発明の実施の形態】以下図1及び図2を参照して本発明の実施形態につき詳細に説明する。図1には本発明の実施形態に係る陸上輸送用冷凍装置の構成図(ブロック図)が示されている。図1、図2において、100は冷凍庫であり、同冷凍庫100内にはエバボレータユニット2が設置され、また冷凍庫100の外部(前方あるいは下方)にはコンディンシングユニット1が設置されている。

【0015】上記コンディンシングユニット1には、エンジン(図示省略)により駆動され冷媒を圧縮するコンプレッサ3、同コンプレッサ3からの加圧ガス冷媒を冷却、液化するコンデンサ4、同コンデンサ4に冷却空気を送るコンデンサファン5、レシーバ6、ドライヤ7、コンプレッサ3への吸入ガス配管である低圧冷媒配管40を開閉する電動弁16等が装備されている。

【0016】また上記エバボレータユニット2には、上記コンデンサ4にて液化され、高圧冷媒配管30を経た液冷媒を断熱膨張する膨張弁8、同膨張弁8を経た冷媒を蒸発、気化するエバボレータ9、同エバボレータ9を通る空気を搬送するためのエバボレータファン10、アクチュームレータ11、後述するエバボレータ吹出温度センサ15、エバボレータ吸込温度センサ22、低圧圧力センサ21等が装備されている。

【0017】12は上記電動弁16に開閉制御信号を出力するマイクロコンピュータを備えたコントローラであり、同コントローラ12には、圧力スイッチ等からなる低圧圧力センサ21から冷媒低圧圧力の検出信号p、あるいは上記エバボレータ吸込温度センサ22からエバボレータ9の吸込空気温度の検出信号t₁、あるいはエバボレータ吹出温度センサ15からエバボレータ9の吹出し空気温度の検出信号t₂の何れか一方あるいは全てが

入力されている。19はエバボレータユニット2の空気吹出口である。

【0018】上記のように構成された陸上輸送用冷凍装置の運転時において、コントローラ12には、上記エバボレータ吹出温度センサ15からエバボレータ9の吹出し空気温度t₂が入力され、あるいはエバボレータ吸込温度センサ22からエバボレータ9の吸込空気温度t₁が入力され、あるいは低圧圧力センサ21から低圧冷媒圧力pが入力される。この場合、上記温度t₁及びt₂、圧力pの全部を検出して入力しても、その中の1要素を検出して(従ってセンサは当該温度あるいは圧力検出用としての1個でよい)入力してもよい。

【0019】そして上記コントローラ12内には、上記エバボレータ吹出し空気温度t₂、エバボレータ吸込空気温度t₁、及び上記低圧圧力pの夫々に対する設定値(目標値)t₁₀、t₂₀、及びp₀が設定され記憶されている。

【0020】上記コントローラ12は、例えば上記エバボレータ吹出し空気温度の検出値t₂と設定値t₂₀との偏差Δt₂を演算し、この偏差Δt₂が設定温度偏差T(例えば1℃以下となったとき、電動弁16を全閉とし、同コントローラ12に内蔵したタイマ機能によりこの状態での運転時間をカウントし、この運転時間が設定された時間即ち設定運転時間継続すると、上記電動弁16に一定の設定開放時間例えば1分間開となる指令信号を出力する。

【0021】従って上記電動弁16は上記設定開放時間(1分間)だけ開となって、コンプレッサ3に、吸入ガスとともに、コンディンシングユニット1やエバボレータユニット2の配管内に溜った潤滑油を還流させる。

【0022】また、上記コンプレッサ3が起動されて、一定時間即ち起動後の設定時間、例えば3分間は、上記コントローラ12は電動弁16に開信号を送り、同電動弁16は開の状態を保持し、これによって、上記と同様、コンプレッサ3には吸入ガスとともに冷媒配管内に溜った潤滑油が還流される。

【0023】上記2つの状態以外の運転時には、上記コントローラ12は、エバボレータ吹出し空気温度の検出値t₂と設定値t₂₀との偏差Δt₂に比例して電動弁16の開度を変化せしめる。

【0024】尚、上記冷凍装置の冷凍負荷の検出手段として、上記エバボレータ吸込空気温度t₁及び冷媒の低圧圧力pを用いた場合も、上記エバボレータ吹出し空気温度t₂を用いた場合と同様な制御方法で以って電動弁16を開閉制御することができる。

【0025】

【発明の効果】本発明は以上のように構成されており、本発明によれば、制御手段により、冷凍装置の軽負荷時及び起動後の所定時間圧縮機への吸入側配管に設けられた電動弁を開放して冷媒配管内の潤滑油を圧縮機に還流

5

することにより、圧縮機に常時所要の潤滑油を確保することができる。これにより、圧縮機における潤滑油の枯渀の発生及びこれに伴う摺動部の焼付きの発生を防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施形態に係る陸上輸送用冷凍装置の構成図。

【図2】陸上輸送用冷凍装置の外観斜視図。

【図3】従来の陸上輸送用冷凍装置を示す図1応当図。

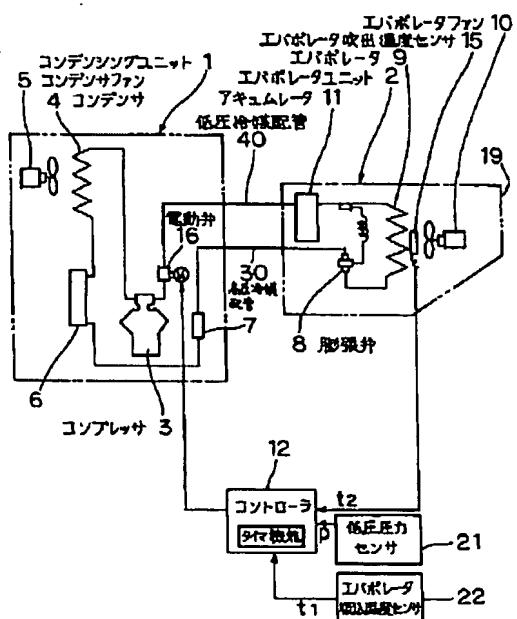
【符号の説明】

1	コンディシングユニット
2	エバポレータユニット
3	コンプレッサ(圧縮機)
4	コンデンサ

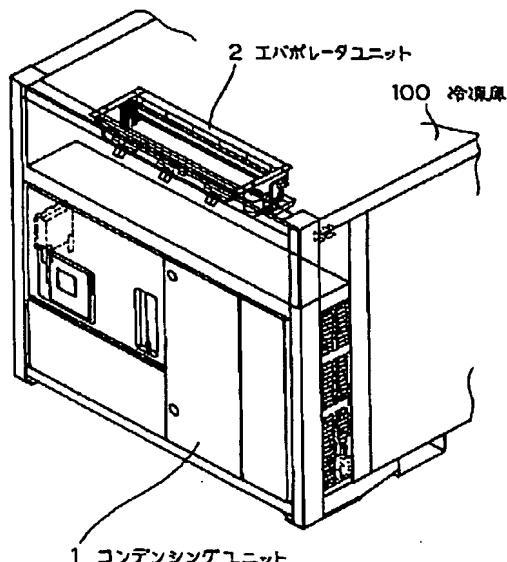
6

5	コンデンサファン
8	膨張弁
9	エバポレータ
10	エバポレータファン
11	アキュームレータ
12	コントローラ
15	エバポレータ吹出温度センサ
16	電動弁
21	低圧圧力センサ
22	エバポレータ吸込温度センサ
30	高圧冷媒配管
40	低圧冷媒配管
100	冷凍庫

【図1】



【図2】



【図3】

